



R8 西栗倉小学校だより

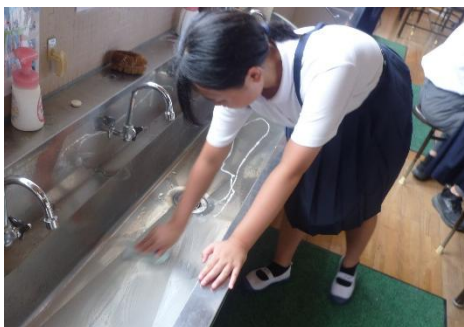
No. 4 令和8年 7月15日 (水)

神は細部に宿る

7月に入り、一気に気温が上がりました。この変化に驚いている間に、もう1学期が終わろうとしています。暑さで体調を崩す児童もありますが、夏休みを前にして、1学期のまとめをみんな頑張っています。

ところで、「学校づくりの核になる 校長通信の極意」(西村健吾著、明治図書)を拝読していたおりに、ご著者である西村校長先生のご実践から、先日、児童の様子を観察しようと、掃除時間に校舎を回ってみました。すると、額に汗をいっぱい浮かべながら、懸命に掃除をがんばっている姿が見られました。

以下に、それを象徴する写真をいくつか紹介します。(全員を載せることはできないことをご了解ください。)



- ①手洗い場の流しをスポンジでピカピカに磨いています。
- ②板の間のごみもきれいにとろうと、力を入れてモップ掛けをしています。
- ③一滴の水も残さないように、ぞうきんをきつく絞っています。
- ④便器の淵の汚れを取り除こうと、ブラシでこすり、仕上げに水をかけています。
- ⑤トイレの洗面台の周囲もきれいにしようと、スポンジを使って隅々まで磨いています。

「神は細部に宿る」という言葉があります。この言葉は、20世紀のモダニズム建築の巨匠ミース・ファン・デル・ローエが好んで用いたことで広まりました。彼は「Less is more（少ないほど豊かである）」という思想とともに、鉄とガラスを用いたシンプルな建築において、部材の接合部などの細部の精度が全体の美しさを決定づけると考えました。

また、19世紀のドイツの美術史家アビ・ヴァールブルクも「親愛なる神は細部に宿る（Der liebe Gott steckt im Detail）」という表現を用いており、誰が最初に言ったかは確定していませんが、細部へのこだわりの重要性を示す思想として受け継がれています。現在もこの言葉は、学者、美術家、実業家、政治家、医療人、教育者、スポーツ選手など、多くの人々によって、また、多くの場面において用いられています。

紹介した掃除の様子は、この1学期、日常の当たり前のことに手を抜くことなく、努力し続けてきた児童の姿、細部に至るまで気を配り、物事をやり遂げて来た児童の「心」を表しているかのようでした。

こうした細部を疎かにせず、学習や生活のまとめに励む児童を、我々も「神は細部に宿る」の精神で、しっかり見取り、確かな成長へと導きたいと思います。

充実した時間を

朝、目覚める。すると、不思議なことに、あなたの財布にはまささらな24時間がぎっしりと詰まっている。そして、それがすべてあなたのものなのだ。これこそ最も貴重な財産である。

時間は実に不思議な貴重品である。そして、それ自体の不思議さもさることながら、その与えられ方も実に不思議である。

考えてもごらんなさい。誰もあなたから時間を取り上げることはできないし、盗むこともできない。そして、あなたはより多く時間を与えられている者も、あるいは少なく与えられている者もないのだ。

（中略）

そのうえ、先の分まで引きだして前借りするなどということもできない。できるのは、過ぎ去っていく現在という時間を浪費することだけだ。

そして、明日の時間を、今、浪費することもできない。なぜなら、それは「明日のあなたのためにとっておかれている」からだ。

先述の西村先生が、ご著書の中でご紹介されていた『自分の時間』（アーノルド・ベネット著、渡辺昇一訳・解説 三笠書房、2016）の中の一節です。「時は金なり」という諺もありますが、時はお金よりはるかに貴重なものなのかもしれません。

もうすぐ、児童が待ちに待った夏休みが始まります。およそ40日間の夏休み。貴重な一日一日を、「時間」を意識しながら過ごしてほしいと願っています。平等に与えられた時間をどのように過ごしていくのか。決めるのは児童一人ひとりです。8月27日（木）に、児童の元気な顔が揃うことを楽しみにしています。